

中央日報記事

官総理,微生物で原子力発電所放射能浄化してみましよう” [中央日報] 入力2011.03.29 00:30 /修正2011.03.29 00:30

官日本総理に手紙送ったイ・サンヒ国立果川(クァチョン)科学館長



福島(福島)原子力発電所事態が半月以上続いて,日本国内外専門家たちが放射性物質流出を防ぐための多様なアイデアを出している。

イ・サンヒ(73・写真)国立果川(クァチョン)科学館長もその中一人だ。彼は去る22日ソウル駐在日本大使館を通じて行った菅直人総理これから手紙を送った。“微生物を利用して,福島原子力発電所の放射性物質を浄化させよう”という内容だった。日本高島(高嶋)開発工学研究所の高島,高嶋康豪博士が開発した複合発効公法(工法)(EMBC-FT)を推薦した。28日イ館長を電話インタビューした。

-高島博士との縁は

“国会議員時期地方区が釜山(プサン)だった。洛東江(ナクトンガン)近隣染色工場らの汚・廃水処理問題に関心が多かった。高島博士が微生物を利用して,産業廃棄物を扮して・処理する方法を開発したという消息を聞いて直接日本に訪ねて行って,初めて会った。以後交流を継続してきた。高島博士を韓国に招請して,国会などで講演するように斡旋することとした。”

-微生物で放射性物質も分解することができるか

“高島博士が2001年台湾原子力委員会核陵研究所で発表した実験結果によれば,低水準放射性廃棄物に含まれたセシウムが40%以上消滅した。当時現場を訪問して,台湾専門家たちと共に高島博士が浄化させた水を直接飲んでみることもした。”

-福島原子力発電所でははるかに高い水準の放射性物質が出てきている

“理論的には高水準放射性物質も処理が可能だ。低水準廃棄物を対象にした実験結果しかないのは高島博士が個人の次元で研究をしてきたためだ。高水準放射性物質を扱う機会を得られなかったのだ。この際日本政府が支援をするならば良い成果を出すことができると思う。今回の機会に高島博士の創造的方法を果敢に適用して,見る必要があると考える。”

-研究費支援も検討中だと聞いた

“果川(クァチョン)科学館で日本災害寄付で1000万ウォンを集めた。このお金を高島博士のセシウム除去技術研究費で支援する予定だ。大韓弁理士会寄付(2000万~3000万ウォン予想)も支援するつもりだ。韓国科学技術団体総連合会も一部金額を支援すると決めた”

イ館長は薬学博士出身だ。科学技術処長官と国会議員(4選)を経て,現在果川(クァチョン)科学館長兼大韓弁理士会長で在職中だ。